

平成 26 年度 大台ヶ原自然再生推進委員会  
生物多様性（相互関係）ワーキンググループ（第 1 回）  
議事概要

◆日時 平成 26 年 9 月 25 日（木）13:30～16:10

◆場所 環境省近畿地方環境事務所 大会議室

◆参加者

【委員】

川瀬 浩 (公財) 日本野鳥の会奈良支部 副支部長  
松井 淳 奈良教育大学教育学部 教授  
村上 興正 元京都大学理学研究科 講師  
横田 岳人 龍谷大学 理工学部 准教授

【オブザーバー】

(一財) 自然環境研究センター 千葉 かおり 主席研究員  
安齊 友巳 主席研究員  
石塚 新 主任研究員

【事務局】

環境省近畿地方環境事務所 田村 省二 統括自然保護企画官  
蒲池 紀之 自然再生企画官  
坂本 英利 国立公園・保全整備課 課長補佐  
遠藤 誠 野生生物課長  
鑪 雅哉 野生生物課 課長補佐  
中山 良太 野生生物課 自然保護官  
安生 浩太 野生生物課 係員  
七目木 修一 吉野自然保護官事務所 自然保護官  
小川 遥 吉野自然保護官事務所 自然保護官補佐  
(株) 環境総合テクノス 樋口 高志 環境部 マネジャー  
樋口 香代 環境部 リーダー  
城向 光弥 環境部

◆議事

- (1) 生物多様性（相互関係）ワーキンググループの座長選出について
- (2) 動植物の相互関係を把握するための調査項目と手法について

## ◆議事概要

### (1) 生物多様性（相互関係）ワーキンググループの座長選出について

- 村上委員を互選により生物多様性（相互関係）ワーキンググループの座長とした。

### (2) 動植物の相互関係を把握するための調査項目と手法について

#### ① 動物と植物の相互関係を把握するための調査項目について

- 調査は、生物多様性の保全・再生の視点から、ニホンジカ等による植生の衰退に伴う動物と植物の相互関係の変化を把握することを目的に実施する。
- ニホンジカ等により衰退したスズタケや草本植物等の下層植生が、防鹿柵の設置等の自然再生事業の取組により柵内部では回復しつつあることから、これらの下層植生との関連性が高いと考えられ、また、回復が期待される動物種に着目し、相互関係を把握するものとする。
- 調査対象は、以下の3項目について実施を検討する。
  - ・コマドリを含めた鳥類（スズタケとの関連）
  - ・ハナバチ、ハナアブ等の訪花性昆虫（開花する草本植物との関連）
  - ・ハバチ類（草本植物との関連）

#### ② 動植物の相互関係を把握するための調査手法について

- 調査対象とする3項目それぞれに以下のとおり担当委員を決め、調査手法を次回ワーキンググループで検討することとした。

- ・コマドリを含めた鳥類（スズタケとの関連）

担当委員：川瀬委員、横田委員

- ・ハナバチ、ハナアブ等の訪花性昆虫（開花する草本植物との関連）

担当委員：村上委員、松井委員、横田委員、日比委員及び丑丸敦史氏（神戸大学大学院人間発達環境科学研究科教授）

※訪花性昆虫の調査については、平成26年度は方針を検討し、平成27年度に全体を把握する調査を実施した後、詳細な手法について検討する。

- ・ハバチ類（草本植物との関連）

担当委員：村上委員、松井委員、横田委員、日比委員、丑丸氏

以上